

CATCH THE YELLOW HEART



一粒の種から生まれた感動のドラマをあなたにささげる
夢・感動物語
そして今 新たな伝統が生まれようとしている

サロマかぼちゃ倶楽部出版社

はしがき

毎年、春とは言っても雪まだ多い、三月。一メートルを越す雪をかぶり、まだ凍結している大地の上にビニールハウスが作られる。そこではその年の農作業のスタートとなるビートの種まき作業が始まっている。

これと歩調を合わせ、一足遅いサロマの春の到来を告げるかのごとく、各新聞にジャンボかぼちやの種の配布の記事が掲載される。雪が解け、また眠気眼の大地にトラクターの音がこだまし、本格的な農作業開始の時期となる四月中旬までに、全国から一千通にも及ぶジャンボかぼちやの種の申し込みの封書が届く。

そして四月下旬の夜、高校生から主婦まで総勢百名余りのかぼちや倶楽部員が町のコミュニティーセンターに集結して、一晩かかって種の発送作業をする。これがシンデレラ夢まつり、そして一千人もの人たちの夢物語の始まりなのである。

一九九七年。今年はいつもの年とは少し違う。『いつまでも子供たちの心に残る楽しい“まつり”をつくろう』を合い言葉に一九八八年九月四日

に第一回のまつりを開催してから十周年を迎えるのである。第一回目からまつりはセンサーショナルな反響を呼んだ。そして一年一年まつりは人々の心の中に刻み込まれ、まちに無くてはならないものへと位置づけられていった。

当然かぼちゃ倶楽部の実行委員の間でも、まつりの手応えを肌で感じ、充実感も年々高まっていったが、その反面、祭りを待っている人たちの期待にこたえるプレッシャーが重くのしかかっていった。また倶楽部員の中でも気持ちの格差が生じて、脱退していく倶楽部員も生じてきていたのも事実である。

そんな中でスタートした、記念すべき『第十回シンデレラ夢、97』。「今までに無い何かを：」倶楽部員共通の思いだった。

その答えはやっぱり一粒の種にあった。種の申し込みの封筒に同封されている、申し込みされた方のメッセージ。札幌の実家の父のポケ防止に役立たい北見市の娘さん。「自然を通し子供たちに豊かな情操を育んでみたい」と考える全校生徒六人の小規模小学校に赴任したばかりの校長先生。入院老人、通院老人の活性化のために毎年栽培している病院のお医者

さん。旅先の函館で新聞記事を読んで、挑戦を決意した大阪府の女性。そして、何と言つても一番多いのが、失敗にも負けず今年こそは：と挑戦状と受け止められるがごとく感じられる、気迫のこもった声だった。

きっとここに何かがある。そんな声を聞いてみたい。もしかしたら私たちの想像もつかないようなエピソードがあるかもしれない。そんな一粒のかぼちやの種から生まれた感動のドラマを、少しだけ私たちにも分けてほしい。そして、その熱い情熱を私たちのまつりに懸けるエネルギーに替えることができたら：。

更には、北海道だけではなく、遠くは九州からも種の申し込みがあつた中で、たとえシンデレラ夢まつりの会場へかぼちやを持って来なくともまつりに参加する方法はないものかと考えた挙げ句、今回の感動のかぼちや栽培エピソードの募集となつた。

応募全作品、十七作品を紹介する。



目 次

はしがき		一
ブービーかぼちゃ生育中	紋別市 松田靖子	五
ミツイばあちゃんとかぼちゃ	幌延町 荒 知	八
かぼちゃ栽培管理日報	札幌市 小野寺政雄	十二
感動?ガツカリ?のかぼちゃ栽培		
私の場合のエピソード		
感動のかぼちゃ栽培	遠軽町 小関登美子	十三
我が家の女王様	福岡県 御木 都	十六
まちがえた!	札幌市 宮下実喜男	二〇
決意?	新冠町 小泉未希	二三
どんどん広がるシンデレラの夢物語	白老町 今村繁子	二五
初めての作品	恵庭市 佐藤 勉	二六
カボチャ栽培	札幌市 和泉綾子	三〇
自然と共に生きる(?)	札幌市 吉田三郎	三三
異常気象	北見市 渡部 豊	三五
音別町立音別小学校のかぼちゃ栽培	登別市 大澤浩士	三九
小さな種から大きな夢が膨らむ	音別町 林校長先生	四一
夢はでっかいシンデレラ	札幌市 伊辺 清	四四
夢のつづきは果てしなく	札幌市 鈴木昭平	五二
あながき	北見市 浜田善蔵	五七
		五九